

妊娠・出産の場合、まず第一に考えなければいけないのは、その行為が人と違い、本人の意思ではなく、家族の意志で決められるということです。その点では、飼い主さんの責任は非常に大きく、安易に考えてはいけません。

特に、人と同じ命がけの行為であることも忘れてはいけません。一部を除いて犬は安産、と言うわけではありません。順調な出産でも、母体には負担になりますし、難産や帝王切開手術時には危険性はさらに増します。場合により、母体ないしは子供のどちらかをあきらめる、という事態も有り得ます。

まず交配を行う前に、相手を探すこと、どこで行うか、など決めなければいけません。また、行われることが少ないのですが、本来は相手の血縁・血統の確認、ワクチン接種やフィラリア症予防、消化管・外部寄生虫などの予防行為をしっかりと行っていること、先天性・遺伝性疾患がないこと、現状の健康状態が良いことも確認する必要があります。もちろん、これらはおうちの子でも行っておくことは当たり前です。

当院では、交配を行う前に、ある程度の検査を受けるべきだとお話します。なぜなら、現在の体調、妊娠・出産に耐えられるか、先天性・遺伝性疾患の有無（すべてはわかりません）、リスクの可能性などが判断できるからです。性格や品種、体型、生活環境なども判断する要素になります。また、容態が急変したり、帝王切開手術が必要になった際の大きな情報にもなります。

例えば、脳疾患や心臓疾患、運動器疾患は大きなリスクとなります。また、肥満、甘えん坊、神経質、飼い主さんが不在が多いなども同様です。犬では、短頭種や小柄な体型もリスクの要因になります。

出来れば、出産はおうちで行えると良いです。環境の変化、安心感、これらは出産に大きな影響を及ぼします。また、そのためには、体調の管理だけでなく、出産についてある程度の知識が必要ですし、介助の方法や赤ちゃんの処置の仕方も学んでおかなければいけません。書籍やインターネットで勉強するとともに、かかりつけの獣医師に指導を仰いでみましょう。

難産や逆子は、獣医師の介助が必要ですし、容態が悪い場合も同様です。そのためには、かかりつけの獣医師と細かく連絡を取っておくべきで、介助の仕方や出産の心得などを教わるだけでなく、場合によってはすぐに駆けつけて頂くか、病院へ行くかなどの相談が事前に必要です。特に、出産は夜間に行われることが多いので、その際の対応も事前に考えておくべきです。また、本来は交配時に出産時期を計算し、その時点でかかりつけ医に相談しておくことをお奨めします。予定日に不在であったり、患者さんで手が離せない、夜間に対応できないなどいろいろな事態が考えられ、場合によっては違う病院を捜す必要もあります。

もちろん、妊娠・出産は安全に行われることの方が多いのですが、危険が伴うためこの程度の内容はしっかり把握しておいた方が良いでしょう。また、健康な状態で無事済ませる事が当たり前と考えなければいけませんから、念には念を入れた方が良いでしょう。後

になって、こんなはずでは・・・、という事が一番後悔になりますから。

出産という経験は、とても意義のあることで、またなかなか経験できることではありませんから、機会があれば経験されることをお勧めします。

出産時に最低限覚えておいて頂きたい事

(あくまで簡単なアドバイスです)

- 落ち着きやすい場所、出来ればある程度暗く、人の行き来が少なく、三方を囲まれたような場所を用意しましょう。下には、少し厚めにタオルを敷いてあげると良いでしょう。陣痛が始まったら、新聞紙などを敷いてあげると巣作りが出来て落ち着きます。
- 赤ちゃんを入れる箱（保温の容易も）を用意しましょう。
- 陣痛の兆候は、体温の測定、様子の変化（巣作り行為、食欲低下、ぬいぐるみを抱くなど）が目安になります。
- 出産に当たって、きれいなはさみと丈夫な太目の糸（へその緒を切って結ぶため）、タオル各種（赤ちゃんを拭く、母体の清拭や悪露（後産）の処理など）、お湯の張った洗面器（赤ちゃんの保温や清拭、蘇生にも必要）、ご家族の役割分担など用意しましょう。
- 赤ちゃんをとりあげたら、出来れば親に任せるのではなく、飼い主さんが膜を破って、へその緒を処理し、よくマッサージ（刺激）するようにふきあげ（場合によっては身体をお湯につける）、乾かしてください。排尿排便の介助とすぐに授乳できると良いでしょう。
- もし、赤ちゃんが呼吸をしていない、鳴かない場合、鼻のつまりをとるために頭を振るか（事前に方法を聞いてください）、吸い出す必要があります。さらに、マッサージを念入りに行い、交互にお湯で暖めるのも良い方法です。その間に、病院へ連絡してください。